

浅口市議会 平成28年第6回12月定例会

桑野和夫議員発言と当局回答

議会議事録から抜粋作成

平成28年第6回12月定例会 - 12月06日-03号

平成28年第6回12月定例会

平成28年12月浅口市議会第6回定例会会議録（第3）

1. 招集年月日 平成28年12月6日（8日目）

1. 招集の場所 浅口市役所議場

1. 開 議 12月6日 午前9時30分

1. 議事日程

第1 一般質問

1. 本日の会議に付した事件及びその結果

日程第1 一般質問

1. 出席議員（4番欠番）

1番	福田 玄	2番	伊澤 誠
3番	佐藤 正人	5番	竹本 幸久
7番	平田 襄二	8番	桑野和夫
9番	加藤 淳二	10番	欠員
11番	中西 美治	12番	柚木 毅
13番	藤澤 健	14番	青木 光朗
15番	大西 恒夫	16番	田口 桂一郎
17番	香取 良勝	18番	井上 邦男
19番	大西 洋平		

1. 遅刻または中途退場した議員の番号、氏名（なし）

1. 欠席議員（1名） 欠員1

6番 岡邊 正継

1. 地方自治法第121条の規定に基づく説明のため出席した者の職氏名

市長	栗山 康彦	副市長	田村 諭
教育長	中野 留美	企画財政部長	秋田 裕

生活環境部長	原 田 尚 文	健康福祉部長	高 倉 道 雄
産業建設部長	松 田 勝 久	上下水道部長	垣 内 長
寄島総合支所長	黒 川 満 孝	教育次長	櫛 田 忠
会計管理者	畑 良 典		

1. 出席した事務局職員

議会事務局長	畝 山 善 生	書記	園 部 智
書記	小 橋 史 明	書記	奥 原 貴 子

午前9時30分 開議

○議長（中西美治） おはようございます。

ただいまの出席議員は16人であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

~~~~~

…(略)…

○議長（中西美治） 御苦労さまでした。

次に、8番**桑野和夫**議員。

◆8番（**桑野和夫**） それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

まず初めに、ごみの減量化についてお聞きをします。

ごみの減量化は、自治体の行財政にとって、また環境を守る面からも重要な課題だと思います。浅口市は、平成21年3月に一般廃棄物の処理基本計画を策定をしております、その中にはこの基本的な問題として、廃棄物の発生、排出を抑制するとともにリサイクルの促進を図り、循環型社会の実現を目指していく必要があります。そのためには、市民、事業者、行政がそれぞれの役割と責任を果たし、地域レベルで対応していくことが求められるというふうに書かれております。

その上でお聞きをしますが、浅口市のごみの減量化の状況についてであります、ここ数年の可燃ごみの量の推移と、それから資源ごみの量の推移について、まずお聞きをしたいと思います。お願いします。

○議長（中西美治） ごみの減量化についてですが。

原田生活環境部長。

◎生活環境部長（原田尚文） 失礼いたします。御質問のごみの減量化についてお答えをさせていただきます。

資源ごみ、可燃ごみの推移はどうかということでございますが、27年度でございますけれども浅口市のごみの総排出量、これにつきまして1万2,812トンという結果でございました。ただし、この中には27年度からリサイクル協力店、この制度を導入いたして

おりまして、この中の数字には協力店の店頭での回収量の589トンが入っておりますけれども、総排出量の推移から申しますと、過去5年ぐらいでは減少傾向になっているということでございます。また、可燃ごみにつきましても同様に減少傾向にあるということでございます。また、資源ごみにつきましては、今協力店のお話をさせていただきましたが、そういうこともございまして過去5年につきましては上昇しているというように、資源ごみについてはなっております。

以上でございます。

○議長（中西美治） よろしいですか。

桑野議員。

◆8番（桑野和夫） 可燃ごみについては減少の傾向にあるというふうに指摘がありました。ごみの減量化については、市の財政にも大きな影響を与えます。そういった観点からお聞きをしますが、まず可燃ごみであります。現在鴨方地域と寄島地域のごみは岡山県西部環境施設組合に搬入をされます。そして、金光地域のごみは倉敷西部清掃施設組合に搬入をされます。そして、それぞれのごみの量によって分担金を払うようになりますが、それぞれの分担金の推移についてお示しをお願いします。

○議長（中西美治） 原田部長。

◎生活環境部長（原田尚文） 失礼いたします。鴨方と寄島地域は西部環境整備施設組合、それから金光地域につきましては倉敷の西部清掃の施設組合へそれぞれ搬入させていただいております。それで、推移でございますが、これもどちらも減少傾向にございまして、25年度の負担金の額で申しますと、西部環境につきましては1億5,918万8,000円ということでございます。26年度につきましては1億4,393万5,000円、27年度につきましては1億3,695万8,000円というふうに減少傾向にございます。西部につきましても同じでございます。

以上でございます。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） 可燃ごみが減れば、それぞれ各組合に払う分担金は減るということでしょうか。

○議長（中西美治） 原田生活環境部長。

◎生活環境部長（原田尚文） 可燃ごみが減ればもちろん焼却の関係で減ってまいりますので、そういうことになるんだと思います。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） 次に、資源ごみについてであります。資源ごみは基本的には浅口市リサイクルセンターに集められて資源回収業者に引き取ってもらうこととなります。分別が進んで資源ごみが減れば、資源回収業者への販売額がふえて収入がふえることになると思いますが、それでいいのかどうかという点と、資源ごみの収入はどれぐらいあるのかお聞きをしたいと思います。

○議長（中西美治） 原田部長。

◎生活環境部長（原田尚文） 資源ごみの売却の収入でございます。

資源物と申しましても、段ボールとかそれから紙パック、それから廃プラといろいろございますけども、27年度の実績で申しますと1,456万4,000円という収入を得ております。これにつきましても、過去から申しますと少しずつふえているというような状況でございます。ふえているということは、リサイクルが進みまして収入がふえているということでございまして、リサイクルの面からいいますと増加傾向にあると、このように考えております。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（**桑野和夫**） 繰り返しになりますが、可燃ごみが減れば歳出が減って、資源ごみがふえれば歳入がふえるということだと思います。ですから、ごみの問題は財政の面からも環境の面からも非常に重要であります。

それでは、可燃ごみを今後限りなくゼロにしていくための市の方針についてお聞きをしたいと思います。

私は、ポイントは生ごみと紙だと思っんですけども、その辺も含めて答弁をお願いします。

○議長（中西美治） 原田部長。

◎生活環境部長（原田尚文） 可燃ごみを限りなくゼロにしていくための方策でございます。

過去に行いました組成調査の内容を見てまいりますと、可燃ごみの中に紙類が36%余り、それから食品とか調理くず、これが34%余り、それからプラスチック類が14.2%程度、このように含まれておりました。可燃ごみを減少させる方法といたしましては、こういった紙とかそれからプラスチックは資源ごみとして分別していただくということでございます。また、生ごみにつきましてはコンポストとか電気式の生ごみ処理機、これを利用するなどして分別を徹底していただくということで、可燃ごみにつきましても大きく減らせるというふうに考えております。特に可燃ごみにつきましては、そのうちの80%程度が水分ということでございます。この水分が、可燃ごみの中に多いですけども、これが多いと焼却場の焼却の効率が低下いたしますし、ごみの総量、重量、これも増加ということになります。ですから、皆様にはしっかり水を切って出していただければ減量化にもつながると思いますので、よろしく御協力をお願いいたします。

○議長（中西美治） よろしいですか。

桑野議員。

◆8番（**桑野和夫**） ありがとうございます。ごみの減量化については、小さいころから子供の教育も大事だと思いますが、小・中学生への対応についてはどうされとるかお聞きいたします。

○議長（中西美治） 原田部長。

◎生活環境部長（原田尚文） 市といたしましても、今の環境教育と申しますか、そういう必要性は大変重要であると、このように認識しております。このために、学校も含めて地区への出前講座、それから市内小学校4年生ですか、授業中の中でごみの減量化に対して標語を考えていただくということで、環境教育、これにも力を入れさせていただいております。このほかに、市のごみの収集を委託している業者と職員が市内の小学校に出向きまして、4年生を対象にごみの教室、こういったことも実施させていただいております。この講義の中では、ごみを減らすにはどうしたらよいかということを考えてもらうために、実際に子供たちに分別作業を行ってもらって、どうすればごみが減るのかということを経験してもらっております。子供たちが一人一人こういう体験をすることによりまして、ごみの減らし方に対する効果は大きいものがあると、このように考えております。

このほか、アルミ缶とかスチール缶の回収の取り組みに顕著な実績を上げている小・中学校、この団体にアルミ缶のリサイクル協会とか、それからスチール缶のリサイクル協会、ここから優秀校の表彰とかそれから感謝状等、これを送らせていただいております。

以上でございます。

○議長（中西美治） よろしいですか。

桑野議員。

◆8番（桑野和夫） 引き続きしっかり対応してほしいと思います。

次に、ごみステーションについてお聞きします。

ごみの減量化のためにはごみステーションの整備も大変重要だと思いますが、ごみステーションの新設と修繕には市からの補助制度がありますが、その制度について簡単に御説明をお願いします。

○議長（中西美治） 原田部長。

◎生活環境部長（原田尚文） 地域のごみステーションでございますが、これの新設、それから修繕でございます。

これの補助制度でございますが、町内会等でごみステーションを新設、それから建てかえ、こういったことを行っていただきましたら40万円を限度といたしまして、また修繕がございますが、そういった場合は補助率3分の2で限度額5万円を交付しております。昨年の実績といたしましては27年度が新設、建てかえが5件、それから修繕が12件ということでございました。

以上です。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） 次に、ごみステーションとアスベストの関係についてお聞きをしますが、ごみステーションの屋根はスレートが多くてアスベストを含んでいる可能性もあります。そのあたりの実態についてつかんでおられるのかどうか、まずお聞きしたいと思います。

○議長（中西美治） 原田部長。

◎生活環境部長（原田尚文） ごみステーションの屋根でございますが、これに、スレートの屋根でございますが、アスベストが含んでいるかどうかということでございます。

市内に今ごみステーションが437基ほどございます。建てかえ時期もいろいろございますけども、今議員さんがおっしゃられました、スレートの波板を使われてその中にアスベストが入っているかどうかということにつきましては把握をいたしておりませんが、スレートの波板の場合は、平成16年以降の製品につきましてはアスベストは含まれてなくなっているということを情報として得ております。解体時には、アスベスト等が含まれているものにつきましては料金も高くなることは確かだと思います。

以上でございます。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） ですから、平成16年以前のものについては含まれている可能性があるということだと思うんです。その場合は、修繕をする場合に特定の業者をお願いをする必要がありますし、修繕の費用も相当高くかかりますが、そのときの場合、特別な措置について検討はされないでしょうか、お願いします。

○議長（中西美治） 原田部長。

◎生活環境部長（原田尚文） アスベストを利用した場合の修繕のことでございます。

先ほど申し上げましたように、ごみステーションの修繕の補助金につきましては補助率3分の2で限度5万円というふうにさせていただいております。解体時というのは、今申しましたが、解体時には飛散防止の作業等が、そういうアスベストがある波板については上乘せをされて修繕費が割高になるということは確かにあると思いますので、修繕の補助金につきましては今後検討の課題とさせていただきたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） 市長にお聞きしますが、ごみの減量化についての市長の決意と、それから先ほどのアスベストのことではありますが、この浅口市ごみステーション施設整備補助金交付要綱の中のただし書きで、市長が特別な工法等が必要と認めたときはこの限りでないというただし書きがついておりますが、これを利用して特別な措置をされるお気持ちはないかどうかお聞きをしたいと思っております。

○議長（中西美治） 栗山市長。

◎市長（栗山康彦） ごみの減量化とごみステーションの補助金についてお答えをさせていただきます。

人が生活していく上でごみは必ず発生するものであります。これまで、分別収集品目を10品目に拡大するとともに、生ごみ処理機の導入補助率の引き上げ、あるいは金光、寄島の総合支所に、日曜日や祝日でも利用が可能な資源ごみのストックヤードを設置してまいりました。引き続きより一層のごみの減量化あるいはリサイクル率の向上を図るための取り組みを行ってまいりますので、市民の皆様の御協力をよろしくお願ひしたいと思いま

す。

先ほど御質問がありました、アスベスト等があった場合のステーションへの補助金でございますけれども、部長が申しあげましたように今後の検討課題とさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） それでは、次の質問に移ります。

健康福祉センターのトレーニングルームのことについてお聞きをします。

議長の許可を受けてアンケート用紙をお配りしておりますが、ことしの10月ごろからトレーニングルームの利用者にこのアンケートを実施をされております。このアンケートはどのような目的で、またどのような方法で実施をされたのか、まずお聞きをしたいと思っております。

○議長（中西美治） 健康福祉センタートレーニングルームのアンケートについてであります。

高倉健康福祉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） 失礼します。それでは、アンケートの方はどのような目的と方法で実施したかについてお答えをいたします。

まず目的ですが、浅口市行財政改革推進懇談会から使用料、手数料及び補助金等の見直しについての答申をいただき、その中で高齢者や障害者の方の使用料について、福祉施策等との整合に配慮するとともに、社会情勢の変化や財政状況を考慮して対象者や軽減割合の見直しを行うこととされています。このことを受けましてトレーニングルームの使用料の見直しを検討しており、実際に利用されている皆様の声を参考にするために実施いたしました。

方法ですが、先ほど議員さんがお配りいただいた内容でアンケート用紙を作成いたしまして10月4日から9日の6日間、施設利用者の方にトレーナーから声かけをしながら実施をいたしました。その結果、利用者のほとんどの方、220人の方から御回答をいただいております。

以上です。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） ということは10月4日から9日までの利用者ですから、この期間に来られてない方にはアンケートは当然してないということでしょうか。確認をします。

○議長（中西美治） 高倉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） 今お聞きしたかった利用者というのが、通常ずっと使われている方、定期的に使われている方の御意見というのを特にお伺いしたかったということで、1週間に限定して実施いたしました。

以上です。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） では次に、アンケートの中身についてお聞きをします。

ごらんのように、このアンケートは値上げをすれば利用料金はどれくらいがよいのか、あるいは値上げをした場合に利用回数はどうするのかというふうに、値上げを前提としたアンケートとなっております。ですから、現状でよいという選択肢がありません。アンケートに答えた人の中には、こういう現状という選択肢がないのはおかしいという声もお聞きしましたが、なぜこういう設問、要するに現状という選択肢がないアンケートにされたのかお聞きをしたいと思います。

○議長（中西美治） 高倉健康福祉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） アンケート用紙の上段に書かれておりますように、現在のところ27年度でいえば利用料収入が200万円弱、それからかかっているお金が820万円ということで支出をしております。実質600万円何がしの赤が出ているというところで、ここは行政が負担しているところなんです、そういうところで当然このアンケートをするということは、見直しということは、収入と収支についてどうやったらいいかということを考えていかにやいけんということで実施しておりますので、現状を下げっていくという選択肢というのは今こちらの事務局としては考えないでやりました。

それから、現状のままという御意見がもしあったらという想定でその他という欄を設けさせていただいております。実際にその他の欄にいろいろな御意見を書かれた方もいらっしゃいました。

以上です。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） その他の欄があるんですけども、値上げをしたら設問の中のその他ですから、基本的になかなか現状維持とかというようなことは書きにくいんだと思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（中西美治） 高倉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） アンケート結果についてはここで公表はできないんですが、実際のところ、その他の欄に現状でやってほしいという御意見もあったことは確かでございます。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） それはそうかもしれませんが、非常に書きにくいというのは確かだと思うんです、こういう設問をされると。

それから、もう一つであります、このトレーニングセンターの利用料金については平成24年の3月議会で、65歳以上と障害のある方について通常金額の半額である100円を徴収するという条例改正案が提出をされましたが、そのときは賛成少数で否決をされております。このことから見てもこのアンケートに現状のままという選択肢がないのは私はおかしいと思いますが、その辺はどうお考えかお聞きしたいと思います。

○議長（中西美治） 高倉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） 先ほど冒頭でも申し上げましたが、行財政改革推進懇談会の答申を受けて、平成24年度時点で否決にはなりましたが、その答申を受けての検討の中で見直しを検討しなければならないということでアンケートを実施いたしました。

以上です。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（**桑野和夫**） 議会の議決というのも非常に重要なものだと思うので、その辺も含めて指摘をしたいと思います。

それから、アンケートのこともあったので、私はこの間トレーニングルームの利用者に何人かお話を聞きしました。その中には、高齢者の方で足が痛くて整形に通っていたが治らないのでこのルームに通い出したらよくなったので通院をやめた。こういう方もおられました。このセンターのおかげで医療費についても相当抑えられている場合があるんだというふうに思っております。そういう点も含めて今後利用料について検討されるんですが、極めて慎重にお願いをしたいと思います。利用者の声も含めて、もしこの後に答弁があればお願いをしたいと思います。

○議長（中西美治） 高倉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） 利用者の声ということでございますが、現在トレーニングルームは1日100人以上の方が実際御利用いただいております。特に午前中はトレーニングマシンの順番待ちが1時間になることもあるというふうに聞いております。また、運動不足の現代を反映しまして、運動したいと新たに申し込まれる方も世代に関係なく多く、昨年度は349の方が新たに申し込みをされたという実績がございます。初めて利用された方からは、利用者が多くて待ち時間が長く利用しにくいという声も聞いております。市といたしましては、経費の面だけではなく運営方法についても、利用される方が平等に利用できるように検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（中西美治） よろしいですか。

桑野議員。

◆8番（**桑野和夫**） このことについて市長の見解があればお願いします。

○議長（中西美治） 栗山市長。

◎市長（栗山康彦） トレーニングルームの利用料金等についてお答えをさせていただきます。

部長が申し上げましたとおり、浅口市行財政改革推進懇談会から使用料、手数料及び補助金の見直しについての答申を受け、現在見直しに取り組んでおります。トレーニングルームの料金につきましては受益者負担という原則のもとに、議員の皆様にご理解をいただき、適正な料金になるよう見直しを行ってまいりたいと考えております。また、利用者が多く待ち時間が長いという問題につきましても、皆様が気持ちよく使用できる方法を検討

してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） それでは、最後の質問に入らせていただきます。

子供の貧困対策についてお聞きをします。

この件につきましては、以前にも質問しましたが、今6人に1人の子供たちが貧困状態にあるというふうに言われております。しかしながら、今の社会は人間が生きていく上で困難を改善、緩和、解決ができてないだけでなく、むしろ貧困と不安を増幅しているのが現実だと思います。そのことは、憲法と子どもの権利条約が示している、子供の命と成長を守るという子供への約束が果たされてないと言わざるを得ません。

その上でお聞きしますが、貧困対策をするためには浅口市内の子供たちの貧困状態を把握することが大事だと思います。子供みずからが御飯が食べられないとかあるいは貧困であるというようなことは言いません。そうであるならば、行政や地域が意識をして聞こえない声をどう聞いていくのか、これが大事であります、この貧困の状態について把握をどうされるのか、また把握をするつもりはないのかどうかお聞きをしたいと思います。

○議長（中西美治） 子供の貧困対策についてですが、まず現状を把握しているのかどうか。

高倉健康福祉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） 失礼します。それでは、子供の貧困状態の把握ということについてお答えいたします。

子供の貧困の状況及び子供の貧困対策の実施の状況については、国において子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づきまして年1回公表をしております。貧困の状況につきましては、生活保護世帯や児童養護施設、ひとり親家庭の子供の進学率及び就職率、就学援助制度に関する周知状況などの指標に関する調査結果が示され、最新のものとして平成25年の国民生活基本調査から、先ほど議員さんも申されましたように、子供の貧困率は16.3%、6人に1人とされています。また、貧困対策の実施については教育の支援、生活の支援、就労の支援、経済的支援、それぞれについて施策や状況が示されています。

市における子供の貧困状態の把握につきましては、全体的な把握までには至ってないというのが現状でございますが、生活困窮者自立支援担当者や母子・父子自立支援員、家庭児童相談員が相談業務を行う上で情報の収集に努めているという現状でございます。

以上です。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） ありがとうございます。

次に、貧困対策についてお聞きをします。

まず、子供食堂についてであります、子供食堂については以前にもお聞きをしました、その後も全国各地で子供食堂が開設をされております。そして、浅口市でも現在鴨方

町と金光町でそれぞれ1カ所ずつ開設されておりまして、今後鴨方町で2カ所開設の準備がされているようであります。健康福祉部長は子供食堂の様子を見に行かれたようではありますが、子供食堂に関する新聞記事も含め、率直な感想をまずお聞きをしたいと思います。

○議長（中西美治） 子供食堂について。

高倉健康福祉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） それでは、子供食堂についてのお答えということであります。

私も、福祉担当といたしまして先日ある子供食堂を見学をさせていただきました。子供とその保護者の方が20名ぐらい参加されまして、ボランティアの皆さんが手づくりの食事を提供されていました。また、食事の後は一緒に歌を歌うなど、終始和やかな雰囲気であったというふうに覚えております。ただ、いわゆる貧困対策というところに考えますと、募集等をされる時に貧困の方というふうには書けないと思います。恐らくどなたでも自由に、ただ子供さんとかひとり親家庭の方がいらっしゃった場合は無料にしますよという内容の募集であったかなあというふうに思っております。

以上です。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） 子供食堂についての自治体の支援であります。最近少しずつふえておりまして、福岡市では新年度の予算に子供食堂を運営する団体への助成金を盛り込んでおりますし、北九州市では自治体で初めて市内2カ所で学習支援も含めた子供食堂を開設しております。浅口市では子供食堂についての支援についてどうお考えか、お聞きをします。

○議長（中西美治） 高倉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） 子供食堂についての支援ということでございますが、子供たちに温かい食事を提供する取り組みは、先ほど議員さん言われましたように、NPO等が主体となって岡山県内でも広まっているようですが、3月の一般質問でもお答えしたとおり、子供の貧困対策として市が主体となって子供食堂のような支援を行うには、子供たちのプライバシーの問題などさまざまな困難を伴うと思われまますので、近隣自治体の動向等を注視してまいりたいというふうに考えております。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） 今後恐らく自治体の支援が広がってくると思いますので、引き続き検討をお願いしたいと思います。子供食堂に来ている子供たちは、全ての子が貧困状態にある子供たちではありません。場合によってはそういう子供たちは来てないかもしれません。しかしながら、たとえそうであっても、子供食堂は貧困状態にある子供たちにとって、自分たちは社会から見捨てられてないという希望あるメッセージになると思っております。同時に、子供食堂をしなくてもよいような社会が早く来ることを願っております。

質問を変えます。

子供の貧困対策は、子供食堂だけではありません。例えば就学援助であるとかフードバンク、学校での朝食クラブとか学習支援などさまざまありますが、特に私は乳幼児期からの対策も大事だと考えております。浅口市として今後の貧困対策についてどうお考えか、お聞きをしたいと思います。

○議長（中西美治） 高倉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） 子供の貧困対策ということでございますが、今検討しておりますのは、生活困窮者自立支援法に基づいて、子供への学習支援等について検討をいたしております。やはり貧困の連鎖というところを断ち切るには、子供が学習意欲を持ってきちっと進学ができる、勉強したい子は勉強をするという体制をつくるのが一つ大切ではないかというふうに考えております。

以上です。

○議長（中西美治） よろしいですか。

桑野議員。

◆8番（桑野和夫） ぜひ、必要な対策を切れ目なく実施をしてほしいと思います。そのためにも浅口市子供貧困対策条例の制定をしてほしいと思います。議長の許しを得て、お手元に条例の案をお配りしております。これは、子供たちへの呼びかけという感じの条例にしております。前文を多少御紹介をしますが、「子どもは浅口市の宝であり、希望であります。皆さんが子どもの時代をしあわせに生きるために、浅口市は全力を尽くすことを本条例に書いております。いじめられ、暴力や虐待を受けることがなく、楽しく遊び、勉強できることを応援し保障しようと思っております。」あとはお読みいただきたいと思いますが、こういう条例、ぜひ浅口市でも制定をしてほしいと思いますが、答弁をお願いを申し上げます。

○議長（中西美治） 高倉部長。

◎健康福祉部長（高倉道雄） それでは、子供の貧困対策条例の制定をということについてお答えをいたします。

浅口市では、次代を担う子供たちがみずから考え、判断し、自身を取り巻く課題を解決する力を身につけるとともに、互いに協力し、先人の築いた文化を継承していくことを促すため、子供の育成について、その基本理念、大人の責務及び基本的な施策等を明らかにすることにより、全ての子供の幸せと健やかな成長を図ることを目的とした、浅口市子ども育成条例を平成18年に制定いたしております。この条例に規定されている教育、福祉及び保健の分野における関係機関の密接な連携を図った総合的な相談体制の充実や、市以外の機関、市民団体等との連携による虐待の防止、子供の育成にかかわる相談体制の充実等に取り組み、課題解決に努めております。市としましては、子供の貧困対策条例を新たに制定するのではなく、今後必要があれば浅口市子ども育成条例をさらに充実することで対応してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） 私が提案しました条例のポイントではありますが、この裏面に子供の貧困率の削減目標をきちんと具体的に書いてる点とか、あるいは子供の貧困を見た場合に連絡を義務とか、そういうふうに貧困対策を具体的に書いておりますので、ぜひ今後検討していただきたいと思ひますし、私自身も今後議員発議を含めて検討していきたいと思ひます。

市長にお聞きしますが、子供の貧困対策はまさに喫緊の課題だと思ひております。困っている子供たちを見捨てる社会でいいのか、その辺が鋭く問われていると思ひますが、この件について市長の見解をお願いをいたします。

○議長（中西美治） 栗山市長。

◎市長（栗山康彦） 子供の貧困対策ということでございますけども、国において子どもの貧困対策の推進に関する法律が平成26年1月に施行されました。その理念は、子供の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのない社会の実現であります。未来の浅口市を担うのは、きょうの子供たちであります。全ての子供が、経済的理由により将来の選択肢を狭められ希望する未来を断念することがないように、また貧困が世代を超えて継承されることがないように、必要な対策を積極的に講じてまいりたいと思ひております。また、議員が言われました条例につきましては、今後必要があれば浅口市子ども育成条例をさらに充実してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中西美治） 桑野議員。

◆8番（桑野和夫） ぜひ必要な対策をお願いしまして、質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○議長（中西美治） 御苦労さまでした。

ここで11時10分まで休憩といたします。

午前10時52分 休憩

午前11時10分 再開

…(略)…

○議長（中西美治） 御苦労さまでした。

（9番「どうもありがとうございました」の声あり）

御苦労さまでした。

以上で本日の日程は終了しました。

これにて散会といたします。

明日は本会議を9時30分より開議いたしますので、御参集ください。

御苦労さまでした。

午前11時36分 散会